

## 2007年3月期 事業の業績(連結)

---

# 2007年3月期 連結業績

(単位：百万円)

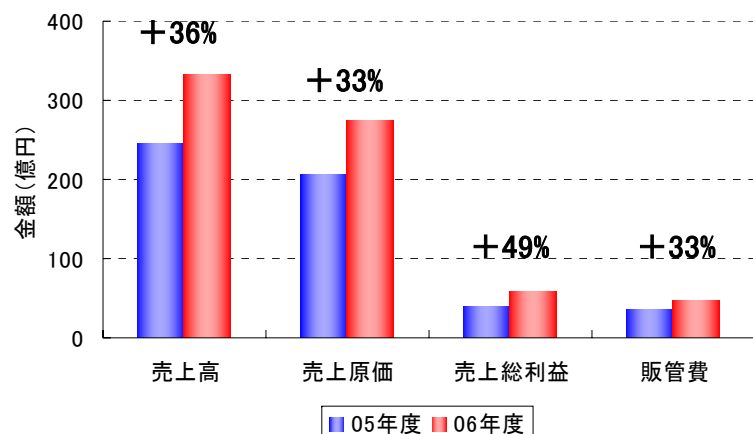
損益	06年3月期	07年3月期	前期比	中期計画 07年3月期	中期計画比
売上高	24,498	33,276	136%	32,000	104%
売上原価	20,592	27,465	133%	—	—
売上総利益	3,906	5,811	149%	—	—
販管費	3,490	4,640	133%	—	—
営業利益	415	1,170	282%	1,300	90%
経常利益	593	1,332	225%	1,300	102%
当期純利益	213	1,119	524%	750	149%
1株当たり 純利益 (円)	4.53	23.81	526%	16	149%

# 業績の特徴

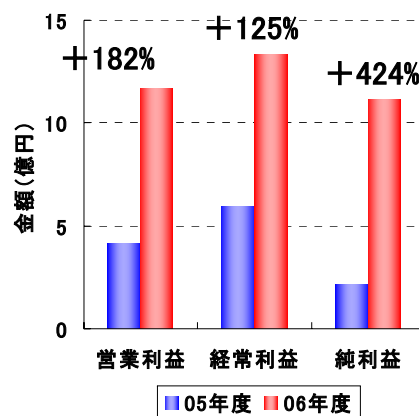
## 特徴

1. 売上高は、前期に対して大幅に**36%**増加しました。富士化水工業(株)の連結子会社化、新規事業として取組んでいるリチウムイオン電池材料、カラートナー用材料、ICタグ用アンテナ、チップ部品用材料、ケーブル被覆用環境安定剤等の進展、中国で展開しているボンド磁石材料の進展等が大きく寄与しています。
2. 売上原価及び販売管理費は、前期に対して**33%**増加しました。富士化水工業(株)の連結子会社化が主要因です。
3. 原燃料価格が上昇していますが、物流コストを含めた製造コストの原価低減活動を精力的に推進することにより、この影響を相殺しました。
4. 以上の結果、営業利益は前期に対して**182%**増加、即ち約3倍もの規模となりました。この内、富士化水工業株式会社の寄与は**13%**程度です。

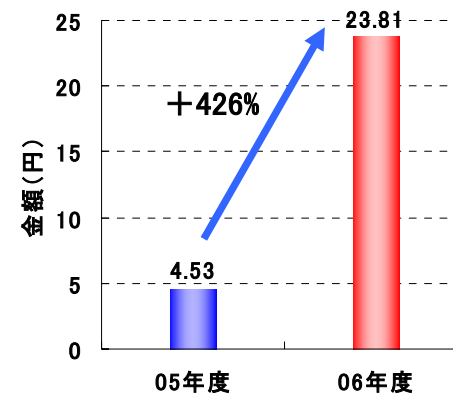
## 売上高、販管費等



## 利益

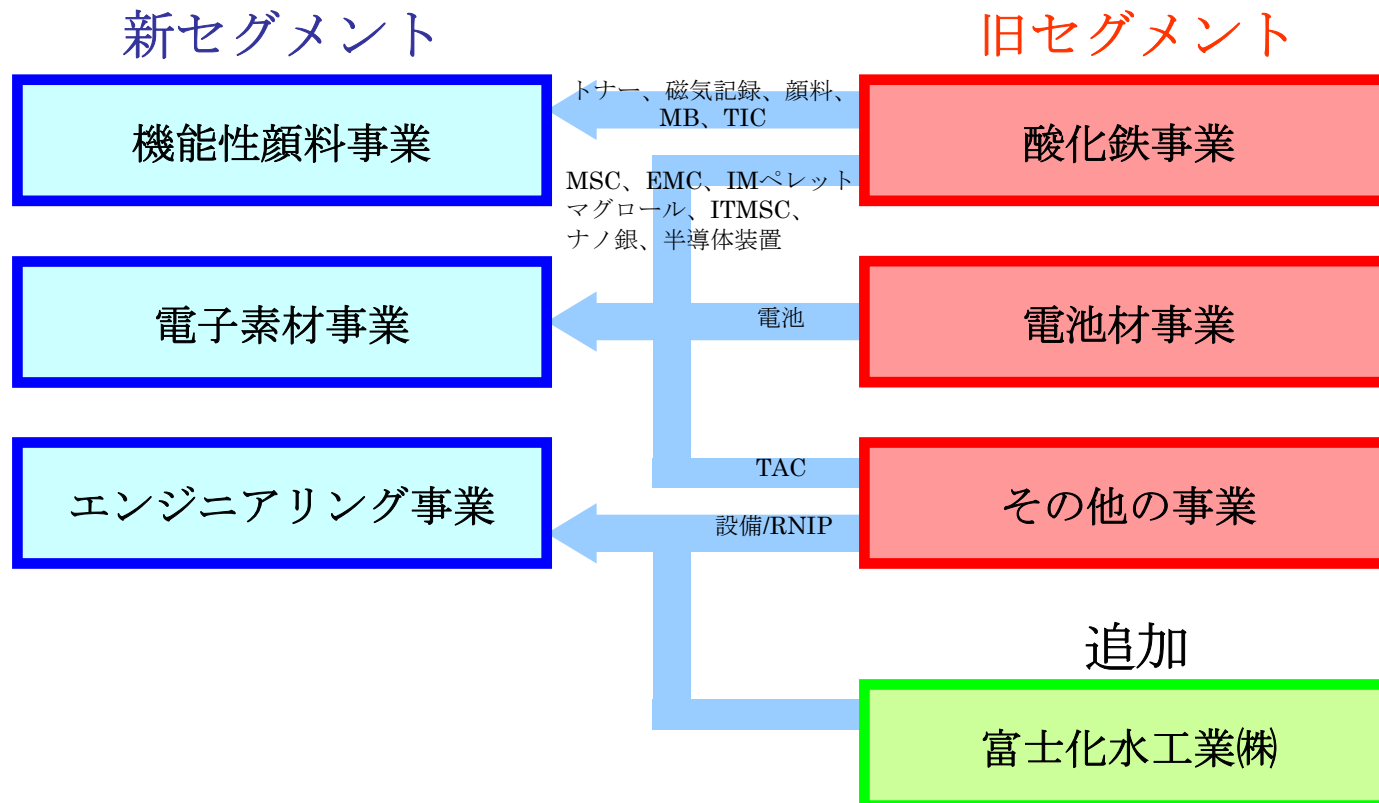


## 一株当り純利益



# セグメントの変更

1. 旧セグメントにおけるその他の事業の比重が大きくなり過ぎたため、富士化水工業に係る事業を独立させました。
2. これに伴い、富士化水工業と関連する環境事業を一体化しました。
3. 他のセグメントの整合性を図りました。



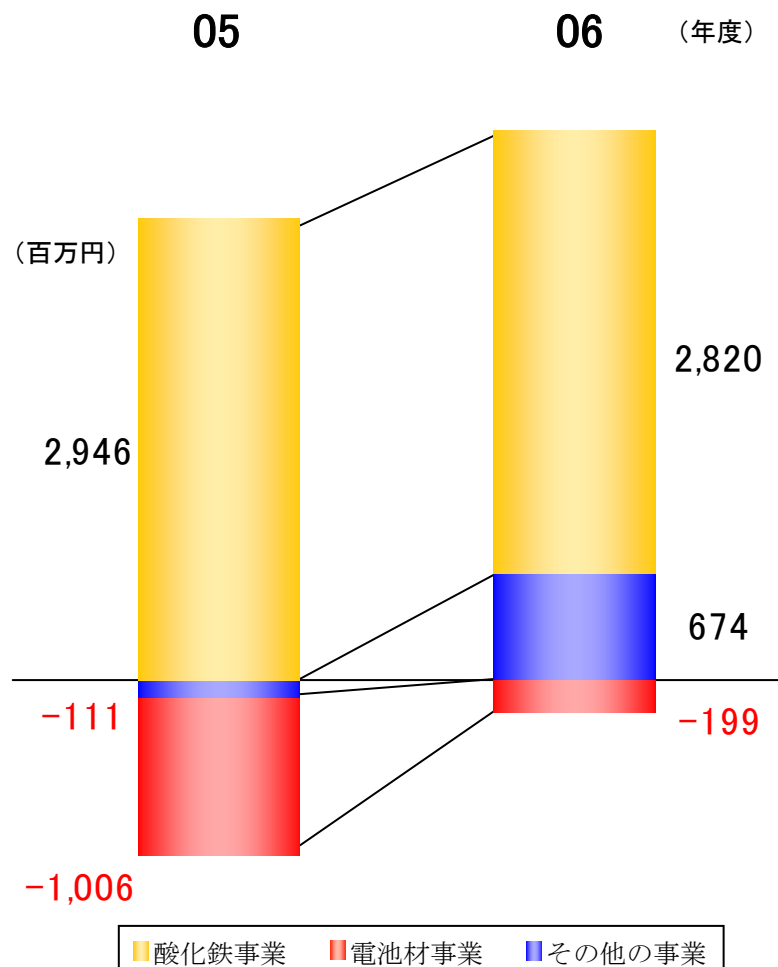
# セグメント別売上高

(単位：百万円)

新セグメント		旧セグメント			
	07年3月期		06年3月期	07年3月期	前期比
機能性顔料事業	14,643	酸化鉄事業	18,714	19,317	103%
電子素材事業	12,258	電池材事業	3,653	6,104	167%
エンジニアリング事業	6,375	その他の事業	2,130	7,854	369%
合計	33,276	合計	24,498	33,276	136%

1. 酸化鉄事業では、景気の回復を背景に、前期比3%増の増収となっています。
2. 電池材料事業は、順調に成長し、前期比67%増と大幅な増収となっています。
3. 富士化水工業(株)が下期から連結された影響で、その他の事業は前期比269%増と大幅な増収となっています。

# セグメント(旧)別営業利益



## ■ 酸化鉄事業

商品の値上げ、拡販、また、原価の低減に努めましたが、原燃料価格の上昇を吸収しきれず、若干の減益となりました。

〔苛性ソーダ12%上昇、重油12%上昇、LPG18%上昇〕

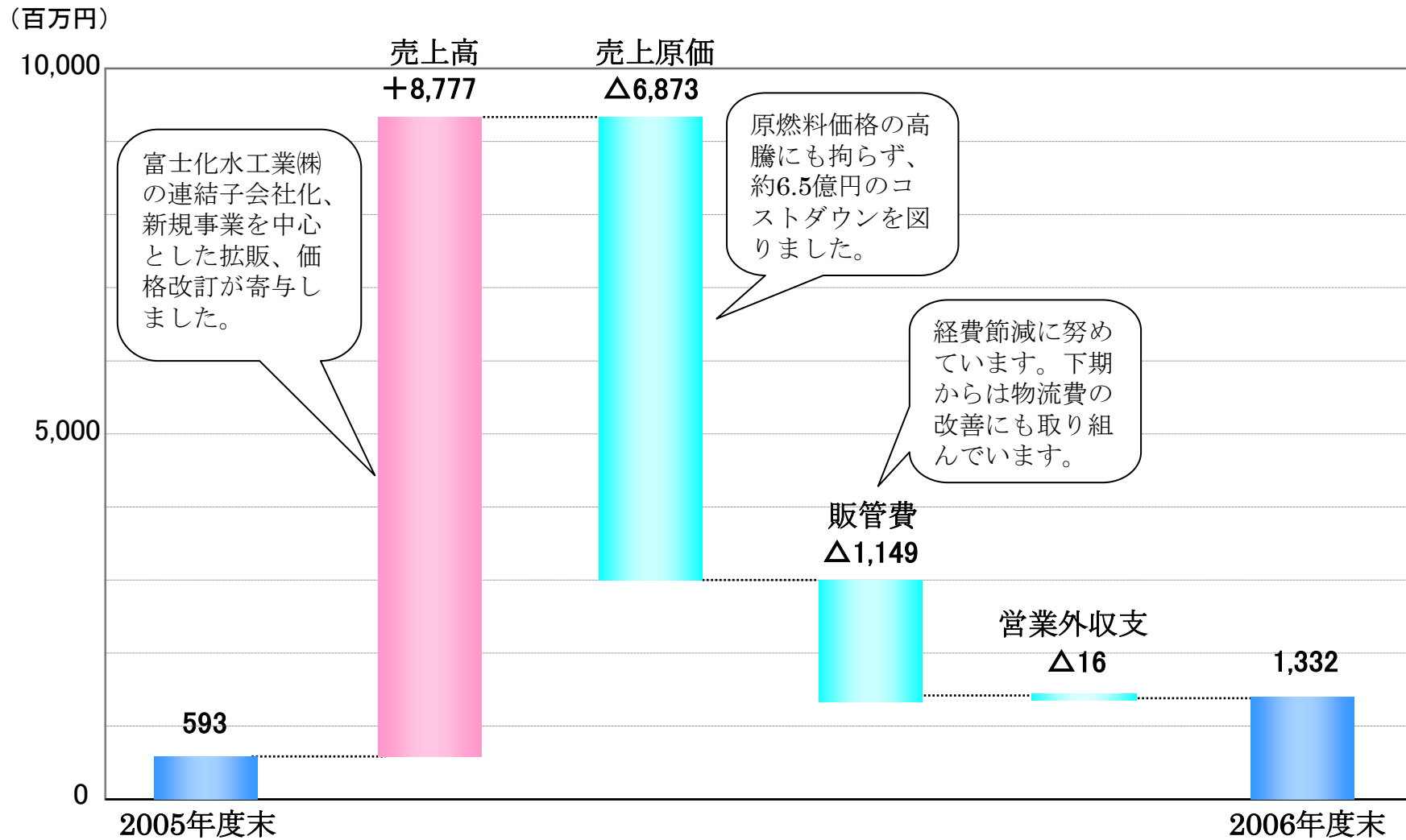
## ■ 電池材事業

電池材料の売上増加に伴い、工場稼働率が大幅に向上すると共に、利益水準が大きく改善されました。

## ■ その他の事業

富士化水工業(株)の連結子会社化により、営業利益が大きく拡大しています。

# 経常利益の分析



# 2007年3月期 貸借対照表科目

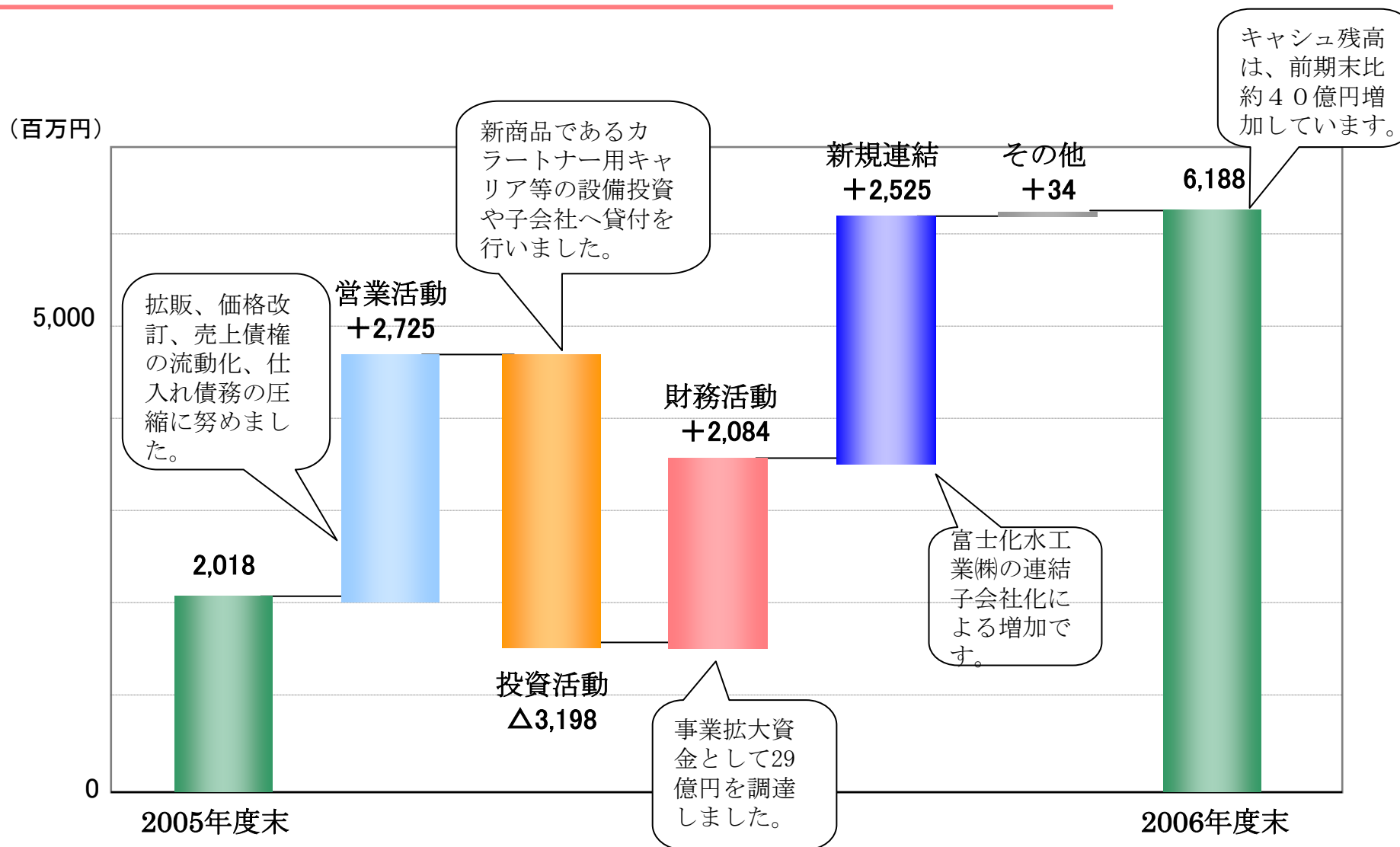
(単位：百万円)

貸借対照表科目	06年3月期	07年3月期	増減
流動資産	14,493	24,472	9,978
固定資産	24,252	26,524	2,272
流動負債	6,313	15,863	9,549
固定負債	3,659	5,683	2,023
少数株主持分	228	436	208
株主資本（新）	27,897	28,300	403
総資産	38,746	51,002	12,256
現金/同等物	2,018	6,188	4,169
キャッシュフロー	△ 366	1,643	2,009
ROE (%)	0.7	3.9	3.2

## 貸借対照表科目の特徴

1. 総資産の増加12,256百万円の主たる要因は、富士化水工業㈱の連結子会社化です。
2. 流動資産の増加9,978百万円の主な要因は、約8割が富士化水工業㈱の連結子会社化、約2割が安定的な原燃料確保のためのたな卸資産の増加です。
3. 固定資産の増加2,272百万円の主な要因は、約5割が富士化水工業㈱の連結子会社化、約5割が非連結子会社に対する貸付金です。
4. 負債の増加11,572百万円の内、約75%が富士化水工業㈱の連結子会社化、約25%が借入金の増加と原料確保のための買掛金の増加です。
5. キャッシュフローについては、財務活動による資金調達の強化と富士化水工業㈱の現金及び現金同等物の加算により、期末の現金及び現金同等物残高は、前期比+4,169百万円となりました。
6. ROEは、業績の回復に伴い0.7%から3.9%へと急上昇しています。

# キャッシュフローの特徴



## 主な連結子会社の状況

(単位：百万円)

会社名	売上高		経常利益	
	06年3月期	07年3月期	06年3月期	07年3月期
富士化水工業株式会社	—	12,181	—	321
戸田マテリアル株式会社	861	1,463	△ 192	△ 147
戸田ピグメント株式会社	1,800	1,877	△ 17	△ 40
戸田工業ヨーロッパGmbH	467	504	1	20
戸田アメリカInc.	2,011	2,061	83	42
戸田塑磁材料（浙江）有限公司	229	427	42	58

※富士化水工業株式会社は1月末日決算。

1. 富士化水工業(株)が行う環境関連エンジニアリング事業は、企業の設備投資意欲が旺盛なことを背景に受注が順調に伸び一定の収益をあげています。
2. 戸田マテリアル(株)のリチウムイオン電池材料は、大幅な増収となっています。規模の拡大に伴い、利益面での改善も進展しています。
3. 戸田ピグメント(株)は、原燃料価格上昇の影響を原価低減活動で吸収しきれず、経常利益が若干悪化しています。
4. 戸田工業ヨーロッパGmbHは、ヨーロッパにおける事業活動方針の転換と管理コストの削減により、経常利益を大きく改善させています。
5. 戸田アメリカInc. は、原燃料価格上昇に伴う仕入価格の上昇で、利益は減少しています。
6. 戸田塑磁材料（浙江）有限公司は、中国国内での拡販・稼働率の向上により、大幅な増収増益を達成しています。

## 設備投資・研究開発・減価償却

(単位：百万円)

	06年3月期	07年3月期	前期比
設備投資	1,441	1,709	119%
研究開発	1,480	1,513	102%
減価償却	1,820	1,829	100%

1. 設備投資の内訳は、カラートナー用材料の増産、リチウムイオン電池材料の性能向上、アンテナ用フェライト基盤の生産に対する設備です。
2. 研究開発費は、新規事業の開発に重点配分しており、引続き規模の拡大を続けます。
3. 減価償却費については、大きな変化はありません。

### ■ 2期連続の増収増益を達成

1. **売上高**は過去最高

333億円 (+36%)

2. **経常利益**は倍増

13.3億円 (+125%)

3. **純利益**は5倍増

11.2億円 (+425%)

### ■ 事業構造の転換、経営の体質改善が着実に進行

1. 富士化水工業(株)を連結子会社化

2. 電池材料事業の収益が改善

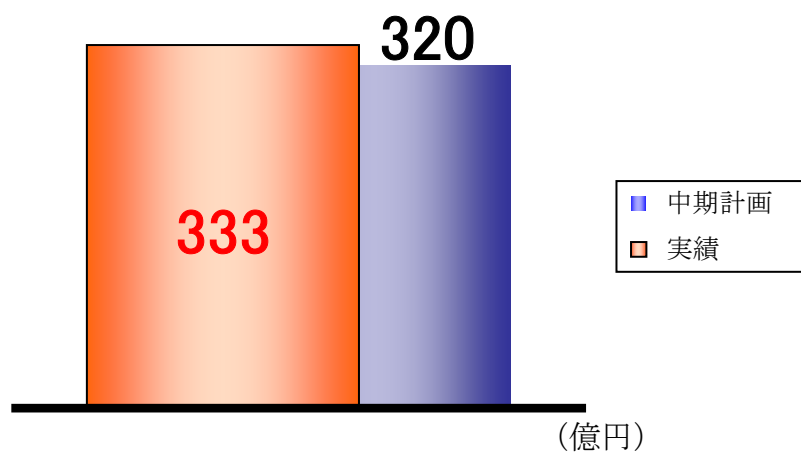
3. 物流費等、経費削減を積極的に推進

### ■ 増配の実施

4.5円 (+0.5円)

# 中期経営計画に対する達成状況

売上高 (07年3月期)



利益 (07年3月期)

